

5Sのポイントとは？

準備が整い、いよいよ工場のなかに案内されることになった白石さん。

動画は
約4分と約3分



SAMPLE



〈4〉と〈5〉をチェック

扉を開けた瞬間に、機械が金属を加工している音に圧倒された。なかに足を1歩踏み入ると、機械とそれらを真剣な眼差しで操作する工員さんたちの姿が目に入る。そして、独特の油の匂いが白石さんの気持ちをさらに高揚させた。たくさんものがあり、動きも複雑に見えるが、なぜか白石さんはきれいな光景をみている印象を受けた。

そのとき、長谷部主任が白石さんを工員さんたちに紹介してくれた。



長谷部主任

こちらが、当社の工場です。どうですか、工場の雰囲気は？



白石さん

工場は原材料や工具が散乱しているものだと誤解していましたが、ここはとてもきれいですね。だからこそ、素晴らしい製品が作れるのですね。



長谷部主任

ありがとうございます。先代社長から受け継いでいる、当社の自慢です。5Sに地道に取り組んで、多くの課題を解決してきてんですよ。

POINT



白石さん

5Sの「整理」「整頓」ですね！



長谷部主任

さすが白石さん、よくご存知ですね！ 弊社は、先代社長からの方針で、5Sの徹底がよいものづくりにつながるという考えなのです。



白石さん

なるほど。5Sの徹底ですね。

(次の場所へ移動)



長谷部主任

手の空いている人だけ、聞いてください。今日は、東西銀行の白石さんが視察に来てくれました。



工具たち

いらっしゃいませ！！



白石さん

よ、よろしくお願いします。

(お辞儀)

長谷部さん、皆さん本当に礼儀正しいですね。



長谷部主任

ありがとうございます。きちんと指導していますからね。5Sの観点からみても、人が我が社の力の源泉ですよ。

POINT

解説

工場の内部に1歩足を踏み入れると、日常ではみることのない光景が広がります。現場のプロになると一瞬でいろいろなことに気がつくといいますが、初めてるときは何をみるのかわからないかもしれません。実際のところ、歩いてみえる部分だけでは、実態まではわかりません。しかし、大切なのは推察をしながらみることです。推察ができれば、1歩踏み込んだ質問ができます。いろいろな視点をもって現場をみることが、より広く・深く相手を知るきっかけになるのです。

そこで、ここでは4Mのうち、3M (Man、Machine、Material) の観点から推察ができることの一例を紹介します。ここで紹介する内容をヒントに、いろいろな現場をみて話を聞き、推察の幅や精度を高めていきましょう。



Man (ヒト) の観点



Part I Chapter 1でも紹介しましたが、年齢構成や服装など、従業員の外見から会社の状況や方針が推察できます。また、働いている人たちの雰囲気からモチベーションを感じ取ることも重要です。カイ技研のように元気な挨拶がある場合と、暗い雰囲気でのやる気がなさそうな人たちが働いている場合を想像してみてください。前者のほうが優れたものづくりをしていることは、容易に推察できるでしょう。人のやる気や技量は、QCD (Quality、Cost、Delivery) に大きく影響します。Part II Chapter 5でも、詳しく解説していますので、併せてご覧



現場のプロが真っ先にみるポイントの1つが5Sです。原材料や工具などが散らかっていると、それだけで作業のロスになります。作業のロスが発生することは、QCDのC（Cost）とD（Delivery）の悪化につながります。一方、原材料の在庫が一目でわかるように色分けしておいたり、工具などをかけておくボードを用意しておいたりすれば、探す時間が不要になります。

5Sの取組みによって企業には、コスト削減や生産性向上、品質向上、機械設備の故障低減や安全性の向上、従業員の意欲向上などが期待でき、企業体質が強化されます。

整頓の要である、「定められた位置」に「定められた量」「定められたもの」を置く「3定」（定置、定量、定品）という言葉も知っておきましょう。

5Sは、単なる美化活動ではなく、課題解決の手法なのですね。



白石さん

図表 5S活動と3定

